



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 (03) 3351-5038 アドレス dsstsw@jaswhs.or.jp



<目次>

1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い
2. 会議の報告及び今後の会議の予定
3. 石巻・現地情報
4. 仮設住宅における医療福祉相談会の報告
5. 遊楽館解散式の報告
6. 現地支援活動報告
7. 現地・事務所ボランティアの感想文



1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い

週末、仮設住宅で相談会を開催しています。

相談会のみ活動も可能ですので、参加をぜひご検討ください。

多くの方のご協力をお待ちしております。

11月のボランティアカレンダー

(11月10日現在)

日付	事務所	現地	日付	事務所	現地	日付	事務所	現地
1[Tue]	○	○	11[Fri]	1	1	21[Mon]	1	2
2[Wed]	1	○	12[Sat]	1	○	22[Tue]	2	2
3[Thu]	1	○	13[Sun]	休	○	23[Wed]	1	1
4[Fri]	1	2	14[Mon]	1	○	24[Thu]	1	1
5[Sat]	○	2	15[Tue]	○	2	25[Fri]	1	1
6[Sun]	休	○	16[Wed]	1	2	26[Sat]	1	1
7[Mon]	1	○	17[Thu]	1	1	27[Sun]	休	2
8[Tue]	1	○	18[Fri]	1	1	28[Mon]	1	1
9[Wed]	1	1	19[Sat]	1	2	29[Tue]	○	1
10[Thu]	○	1	20[Sun]	休	2	30[Wed]	○	2

*数字は必要な人数・○は足りていることを表す。

① 支援活動協力員登録人数（11月10日（木）現在）

- ・ 現地支援活動協力員 : 180名（参加者延べ人数：828名）
- ・ 事務所支援活動協力員 : 92名（参加者延べ人数：454名）

皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。

[災害対策本部（03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp）](mailto:dsstsw@jaswhs.or.jp) 平日・土・祝 10～17時

※メールでご連絡の際は、件名に「(現地)または(事務所)災害支援活動協力員希望」とご記載下さい。当会ホームページに[現地ボランティア応募フォーマット](#)が掲載されています。

② 現地支援活動について

宮城県大崎市古川のマンションが活動拠点となります。

平日1日3～4名体制 週末（金曜日～月曜日）1日4～5名体制を予定しています。

- ・ 引き継ぎ等の関係により、原則3日以上のご参加をお願いしていますが、相談会（2日間）のみの参加も可能です。
- ・ 毎週金曜日に災害対策本部副部長が現地入りし、統括をしていく予定です。

③ 事務所支援活動について

活動日程 : 月～土、祝日 の 10時～17時 ※半日での参加も可能です

活動内容 : 現地支援活動協力員の派遣調整、現地とのやりとり、電話・メール対応、事務処理
1日2名を目標にご参加頂いております。

財政的に厳しい状況が続いているため、事務所協力員は交通費1200円上限とさせていただきます。

④ 寄付金の振込口座：郵便振込口座

皆様の協力をお願い申し上げます。

口座名義 : 日本MSW協会災害支援金

口座番号 : 00100-1-89515

支店名 : 〇一九（ゼロイチキユウ）店（019）

口座種別 : 当座

※他の金融機関からお振り込みいただく場合には下記のようにお願いします。

ゆうちょ銀行 口座種別 : 当座預金 支店 : 〇一九（読み方:ゼロいちきゅう）店

口座番号 : 89515

備考 : お振り込みいただく金額に制限はございません。

ご自分のお名前とご連絡先をご記入ください。

お振込手数料は、各自でご負担ください。

***寄付の用途は、当協会の行う東日本大震災災害救援活動に使うことが決定しています。**

⑤ 活動内容の掲載について

石巻以外の地域で活動している方や被災者を受け入れている機関などの活動を本紙に掲載したいと思います。ご協力いただける方は[災害対策本部](#)までご連絡ください。

2. 災害対策会議の予定

次回の日程は検討中です。
決まり次第お知らせします。

3. 石巻・現地情報



① 石巻での活動内容 ※状況によって内容変わります。

- ・ 仮設住宅の巡回及び入居者の相談支援
- ・ 遊楽館を退所した方のフォローアップ
- ・ 地域の保健医療福祉機関のニーズ把握と対応
- ・ 福祉関係職種との連携と協働（カンファレンス等）
- ・ 経過サマリー作成業務
- ・ 在宅医療を担う医療機関との連携
- ・ 茶話会（医療福祉・生活相談会）の開催及び準備

② 宿泊場所

大崎市古川の2LDK マンション。

* JR 東北新幹線 陸羽東線 古川駅より徒歩約9分

③ 現地移動車両

ガリバーインターナショナル社様のご厚意により、当会へ自動車を1台貸与していただいています（保険や車検関係はガリバー社が負担してくださっています）。

現地ボランティアの皆様の足としてご利用いただけます。

車種：トヨタ「イスト」 ナンバー「野田 501 ち 3967」 銀色

④ 携帯電話

ソフトバンク様より、当会へ20台の災害用電話の無料貸し出しをしていただいています。

7月1日より、現地および、協会本部はソフトバンクの携帯電話を利用しています。

4. 仮設住宅における医療福祉相談会の報告

現地担当者 佐藤 杏

11月5日・6日に5回目の仮設住宅における医療福祉相談会を実施しました。

1日目は11名、2日目は9名の方が茶話会に参加し、個別相談者は3名でした。

個別相談の内容は「住居に関すること」「入浴について」「就労について」で、茶話会の話題は「被災からこれまでの生活のこと（避難所での生活など）」「被災前の生活」「集会所の利用について」「生活情報の共有：買い物や医療機関など」「震災へのそれぞれの思い」でした。

大森地区はイベントが少ないのか、開始時から参加者がおみえになりました。みな口々に仮設住宅では狭いのでお茶飲みも気が引けて・・・と仰っていました。今回の茶話会/相談会は、人々が集う「きっかけ」となり、他人と話をしてコミュニケーションを図ることで、震災に対しても徐々に受容が進む事もあるかと思われました。隣近所の方との交流が大きくは進んでいない中で、今回初めて顔を合わせた方が、元は同じ地区・同じ避難所におられたことが分かり、連絡先を交換していました。この集いがこの先も住民同士の結束に発展していくと嬉しく思いますし、第4団地に限っては、集会所の利用についてもぜひ進めたいとの希望がきかれましたので、第4団地での再度の開催と住民の自治管理への流れをつくっていきたいと考えます。

又、他団体の方が、見学に来てくださいました。支援団体同士のネットワークを広げ、石巻での支援の網目を細やかにしていけるといいなと思います。



配布したチラシ&ポスター



茶話会の様子

5. 遊楽館解散式の報告

現地担当者 佐藤 杏

11月2日(水)夕刻より、石巻市内のブライダルホールで、遊楽館解散式が開かれました。石巻市立病院伊勢院長や赤井先生を始め、市立病院の医師・看護師・コメディカルの他、PCATから8名の方が参加されていて、総勢80名程が集まった盛大な会でした。

冒頭、院長からのご挨拶で、石巻市立病院は4年後・平成27年を目指し、再建が決まったことのご報告があり、会場から拍手が沸き起こりました。現在は退職されている方や市内でばらばらに活動している市立病院のスタッフは会場に入るなり、再会を喜び、抱き合ったり涙を流したりしていました。それが我がことのように嬉しくて、暖かな気持ちになりました。

赤井先生は最初から少し感極まった様子で「遊楽館を自分が先に去ることは思っていなかったが、申し訳ない。ここからが始まり。皆様とも5年10年のお付き合いになると思っています」と仰っていました。ある看護師さんは、「生きるということだけを考えて生きることって多分この先もないと思う」そして「実際に全国他の地で同じような災害があったら、私たちは支援に行ったのかな…と看護師同士で話していて、多分行かないだろうな…そんな中こんなにもいろんな人に助けってもらって感謝している」と続けられました。司会は、崎山師長さんと阿部師長さんでした。進行を聞きながら、遊楽館を明るくまとめていってくださったのはお二人のお力も相当大きかったのではないかと感じていました。

今回の解散式の発起人は、PCATの方だそうです。会の費用やビンゴ大会の景品など補助して下さっていたそうです。PCATも引き続き支援をされているとのこと、今後も支援団体同士協働しながら石巻への支援をしていきたいと思っています。当初から関わられていた方々のさまざまな思いを聴き、一つの区切りとして、このような会が催されたこと、それ自体にとっても大きな意味があることを実感しました。

当協会では解散式参加に向け、前日ではありましたが災害対策本部より、遊楽館で活動した現地ボランティア参加者宛にメッセージの依頼をお願いしたところ13名の方が寄せて下さいました。A4にまとめてプリントしたものをPCATさんのお手紙と併せて会場に掲示して頂きました。

会の中で伊勢院長や看護師さん、PCATさんから「まさか遊楽館が本当に9月30日に閉められるとは思っていなかった。SWのおかげ」とのお言葉を頂戴しました。医療機関の中で行っている「退院支援」というSW業務が形を変えて、福祉避難所から退所する際に、継続する生活を想定した支援を提供できたことを誇りに思えました。



6. 現地支援活動報告

一原 綾子（自宅会員）

期間：10月25日～10月29日

1ヶ月ぶりに現地へ行って来ました。今回は現地担当者の佐藤さんの代理という重責でしたが、最終日には無事、石巻市万石地区で医療福祉相談会を開催することができました。開催までは、地域の視察とアセスメント、ポスターやチラシの作成、仮設住宅400戸へのポスティングといった準備が必要で、頭も体も五感もフルに働かせました。相談会初日の相談者は2人で、うち1人は、保健師が全戸訪問を行った中から石巻市立病院看護師の訪問事業につながり、さらにそこからこの相談会につながった方でした。長蛇の列ができるようなタイプの相談会ではありませんでしたが、石巻市が阪神や中越から得た教訓を生かすべく講じている支援体制がうまく機能し、当協会もその一翼を担えたことを実感しました。その他、市の仮設住宅担当者との打ち合わせや、河南地区の関係職種が集まるエリアミーティングへの参加等を行い、活動範囲が遊楽館当時より随分拡大したことを実感しました。そんな中、遊楽館で一緒に働いた市立病院看護師さん達との嬉しい再会もあり、これからも協働できることを心強く感じました。

落合 朋子（亀田総合病院）

期間：11月1日～11月3日

初めて参加しました。今までは避難されてきた方や同僚から話は聞いていたので、今の市内の状況になるまでに多くの人の力があつたのだろうと改めて思いました。また、活動期間中に遊楽館の解散式もあり、関係者の皆様のエネルギーを感じるとともに、今まで日本医療社会福祉協会から参加された皆様がソーシャルワーカーとして力を発揮し、活躍されたことを肌で感じる事ができました。そこでできた繋がりが今後の地域での支援にも非常に大切なものなのだと思います。いつもは組織のなかで働いていますが、地域を基盤とするソーシャルワークの魅力と奥深さ、そして難しさを垣間見る事ができました。「コミュニティ形成」など同じ言葉を使っても、意図や手段、目標が異なるであろう行政機関やNPOの方々などと、いかに協働していくか等、非常に短い時間ではありましたが、色々考える機会を頂きました。それらは、今後の業務にも生かしていきたいと思えます。

岩間 光紀（秀友会 介護保険相談センター）

期間：11月2日～11月5日

遊楽館閉鎖後の活動となったこの時期は、関連各機関（地元の医療機関や行政、現地入りしているNPO等の団体、行政委員）との連携場面に同行しました。避難所から仮設住宅などへの居住場所は定まったものの、住民の方々の生活状況把握や支援は、今のところ、生活場所によってのばらつきもあるようです。各機関の連携を促進しながらの活動展開も必要で、そのコーディネートの役割もソーシャルワーカーが関わることのできる重要な部分だと思います。仮設住宅での相談会は、名称を「茶話会」と併用してチラシ配布を行いました。個別相談体制を維持しながらも、テーブルを囲みながら会話する雰囲気、入居者同士のコミュニケーション場面として、とても効果的であると思われました。

7. 現地・事務所ボランティア感想文

現地・事務所ボランティアの思いや業務のことなど・・・一読ください。

～現地から～

10月31日（月）

和久田（聖隷浜松病院）

29日から初めて現地ボランティアに参加しました。今日は一人での活動だったので、石巻市立病院周辺の様子を見に行き、改めて被害の規模とひどさに圧倒されてしまいました。

その後、石巻での拠点となる物件探しをしましたが、やはり不動産屋でも賃貸物件は一つもなくなかなか難しそうです。

11月1日（火）

現地担当者

11月に入りますます日中と朝晩との寒暖の差が激しくなりました。日中、かかってくる電話対応のため、都度車を止めて話をしていると、日焼けしそわなくらいですが、朝晩は寒くて・・・ホットカーペットを購入しました。

今日は11月初日にふさわしく？とても慌ただしい日でした。先週末ボランティアに参加していた埼玉県立大学・梅崎さんのつながりで、石巻市内の拠点となるアパートを紹介して頂きました。（社長さんも〇〇さんのお願いだから断れないんだよ！！と笑ってました。）やはり市内の不動産屋さんには全部N.G.、足で探してもないので、いよいよ東松島市まで足で探しに行こうと思いを走らせていたところに入った朗報でした！SWのネットワークや人とのつながりをこのようなところでも実感し、嬉しく思いました。

その他、業務の点でも、少しずつですが、SWを活用して頂けるのかもしれないという可能性を感じる一日でした。被災者やここ石巻の役に立てるように、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいです。

11月2日（水）

現地担当者

本日は午後から会議続きでした。

その後、遊楽館解散式に出向きました。盛大な会でした。

11月3日（木）

現地担当者

今日は、週末の茶話会/相談会の準備として、大森地区の仮設住宅：286戸へポスティングを行いました。朝は驚くほど寒かったのですが、ポスティングをしていたらかなり暑くなりました。日差しも強く、冬に向かっているとはいえ、日焼け止め対策は必須です！

そして仮設住宅に断熱材を追加する工事が始まりました。入居されている自宅を工事されている状況は、かなりの不便だと思われました。

11月4日（金）

現地担当者

石巻市内の事務所兼宿舎を見学し、借用することに決定しました。後刻、不動産屋さんへ出向き手続きについて確認し、協会事務局/協会災害対策本部へ連絡しました。

また、祐H.Cの在宅避難世帯支援事業の一環としての生活アセスメントのお話を伺い、今、石巻では本当に多方面からの支援が必要であり、それぞれの機関や団体がつながりながら行うことが大切だと改めて痛感しました。「福祉」と一口に言っても、多団体が入っていますが、それぞれの得意分野を生かしながら協働することの大切さと現状での難しさを感じています。でも、この事業への参加や恵み野団地の自治体づくりなど、一歩ずつ丁寧に、継続していける地域社会システムを作っていく過程で、何かが変わってくるような可能性も感じます。

11月5日（土）

現地担当者

今日は、茶話会に11名の参加がありました。

ささえあい拠点センターでの相談会も今回で終了ですが、それぞれの仮設住宅の特性が表れるような参加者数なのかもしれません。

明日はどうか分かりませんが、今日いらして下さった方が、「今日ここにきて、良かったわ」「楽

しかった」「こういう相談できる人がいるだけで違うからね」「今度は第4団地でやってね」「また来てね」「ゴミ箱（卓上に置く折り紙のもの）いっぱいあるから持ってくるよ」と仰って下さったことが、とても嬉しかったです。

11月6日（日）

現地担当者

大森地区では、多くの参加者がありました。

ここでは「茶話会」の keyword が良かったのだと思います。皆様、ちょっとお茶を飲みに・・・と気楽に寄って下さいました。そしてこれをきっかけに、人々がつながっている姿をみていて嬉しくなりました。

～事務所から～

10月31日（月）

左右田（初台リハビリテーション病院）

週末の現地の活動報告を頂き、継続することの大切さを感じました。

11月1日（火）

一原（自宅）

今日から11月！事務所では取手さんとミニ会議を行い、今後のボランティア募集の方法などについて話し合いました。現地からは、石巻市内で優良物件が見つかりそうだと聞き、大喜びしました。

11月2日（水）

田玉（初台リハビリテーション病院）

本日は落ち着いた状態でした。ボランティアの応募をいただき感謝です。

11月5日（土）

笹川（初台リハビリテーション病院）

初めてご一緒させていただいた伊藤さんから色々なお話を聞くことが出来、とても勉強になりました。被災地支援だけでなく、多くのSWの先輩方と会える機会をいただき、SWって素敵だなと改めて感じています。

11月5日（土）

伊藤（渋川総合病院）

約2か月ぶりの事務所です。忘れていたことも笹川さんに思い出させていただきました。余分なお話が多くてすみませんでした。

仮設住宅のプロットMAP作成は手間のかかる作業ですが、今後の活動には不可欠なものです。

途中まででしたが、市の各所にこれだけあるのだなと、数の多さを実感いたしました。

これからもできることをしていきたいと思います。